

会派視察報告書

大崎市議会 創新会

1. 視察概要

会派名	創新会
氏名	佐藤仁一郎、佐藤弘樹、伊勢健一、早坂憂、石田政博
日 時	令和 5 年 7 月 7 日 9:15～11:00
視 察 先	学校法人ろりぽっぷ学園(仙台市太白区坪沼長田中 9-1)
出席者 (説明者)	ろりぽっぷ小学校 校長 日本イエナプラン教育協会 理事 高橋 元気 氏

2. 視察内容

視察項目	不登校特例校の運営について
	ろりぽっぷ小学校は、2023 年 4 月に開校し、学びの型の選択肢として(不登校特例校)独自の教育課程である「ろりぽっぷプラン」を実施している。視察時点では3カ月が経過。 具体的には、ろりぽっぷ学園が行う「幼児教育～体験活動から学びへ～」そして、オンラインで取り組まれている「イエナプラン教育のコンセプト」を活用し、学習内容を「自己選択・自己決定・自己対応」出来る様に配慮し、興味・関心のある学習内容から活用し、得意とする学び方で学びの場を設定し異学年グループ等も活用する内容となっている。 このイエナプラン教育の特徴としては、大きく4つの基本活動(対話→遊び→仕事→催し)を循環させ、学校を生活の一部と捉えて、日常生活と同じリズムで日々を循環させていく手法である。 また、「人間キャリア科」の新設や、様々な人との交流活動、様々な体験を通し、人間関係づくり・保護者の支援・体験活動に取り組んでいる。 なお、イエナプラン教育では、教室は子ども達にとって居心地の良いリビングルームの様であるべきだとされている事から、教室を子ども達にとって安心出来る場所になる様に環境を整え、必要であれば子ども達と環境を作り替えている。 ※説明後に、学校紹介動画を拝見させて頂いた上で、校内をご案内頂きながら、その都度質問にも丁寧に説明・回答を頂いた。 〈質疑応答〉 問 学校運営における課題はどうか。 答 一人ひとりの学びをどう保障するかが課題で、学びのペースや先の進路、人との関わりも考えていかなければならない。また、保護者の負担では、他の私学より多少学費を下げたものの、社会貢献の一環でもあり、現状では大幅な赤字となっている。なお、見学者は多いものの、元々公立に通っていた方は、バス代を含めると6万円程の負担が必要となるため、経済的に難しいと判断される方が多い。公的に保護者負担を軽減する対策が望まれる。 問 教育方針における課題はどうか。 答 私たちの教育方針が全てと考えているわけではない。ここに合う子ども達が通えばいいと思うし、学区の問題もあり選択肢が無い公立学校に通う子ども達の受け皿になればとも考えている。

考 察 【所感・課題 ・提言等】	不登校児童・生徒は大きな課題となっており、社会的にも子ども達が自由に学び人間関係やコミュニケーション能力を構築出来る受け皿としての居場所は重要である。 ろりぽっぷ小学校は、独自の教育方針に加え、オランダで取り組まれている「イエナプラン教育のコンセプト」を活用する事で、大人がどういう子に育てたいかではなく、子どもがどう育とうとしているのかを大切に、子どもに寄り添い総合的な育ちに繋げ様としている事がよく理解出来た視察となった。 大崎市においても、不登校対応されている民間団体・施設があるが、社会的な使命感や子ども達の居場所、人格形成へ心を砕かれている方々ばかりであり、自宅から出れない子ども達・居場所が無い子ども達のためにも、保護者の負担軽減に繋がる施策も求められている。また、不登校特例校については、市内でも学校統合により廃校となった小学校もあるため、内容・立地等を十分に検討した上で、今回のろりぽっぷ小学校での取り組みも参考に施策提案したい。
------------------------------------	--

以 上

会派視察報告書

大崎市議会 創新会

1. 視察概要

会派名	創新会
氏名	佐藤仁一郎、佐藤弘樹、伊勢健一、早坂憂、石田政博
日 時	令和 5 年 7 月 24 日 13:30～15:00
視 察 先	愛媛県松山市
出席者 (説明者)	松山市役所産業経済部地域経済課 主任 西野栄一氏 副主幹 近藤 慎之助 氏

2. 視察内容

視察項目	松山しごと創造センターについて 松山しごと創造センターは、市内中小企業を中心に経営や創業の相談を受ける市の相談機関として、中小企業診断士による無料相談や各種セミナーを通じて中小企業の支援を行っている。 伊予鉄総合企画株式会社と中小企業診断士協会で企業経営や創業のための情報学習支援事業業務受託コンソーシアムを形成し、業務管理責任者(所長)1名、業務従事者7名の体制で業務に当たっている。 創業と経営支援を一体的に実施し、各事業で構築してきた関係機関との連携体制も活用し事業の効率化を図るとともに、幅広いサービスをワンストップで提供している。 また、平日は19時まで、土曜日も18時まで営業し、平日昼間に来所が難しい利用者へも対応を行っている。創業後間もない企業への訪問(プッシュ型支援)も展開し、初動支援から経営改善まで成長段階に応じた幅広い支援を行っている。 ※まつやま創業者クラブについて 平成28年に、創業予定者や創業後概ね3年未満の中小企業経営者や個人事業主を対象に、会員や支援機関参加者同士の交流を図り、創業や経営上の課題情報共有する事でそれぞれがもつ課題解決、新たな事業展開や事業コラボを目的に運営している。 成果として、会員同士の繋がりができ、創業予定者にとっては今後の開業に向けてのヒントや進め方、困り事などを共有出来る効果がある。 また、支援機関(商工会議所や地元金融機関)との繋がりもでき、意見交換する機会や販路開拓、事業連携にもつながっている。(詳細は添付資料参照) 〈質疑応答〉 問 県にあった同様の機関と統合する事となった経緯は。 答 愛媛県の就労支援機関「愛ワーク」と、市の相談機関「松山しごと創造センター」の就労支援業務の重複部分について、業務を統合しコスト削減を目的に県と協議を行い、統合について協議が停滞している時期もあったが、両機関ともに入居していたテナントビルが移転する必要がある事などを要因として県と統合の話が進んだ。 問 統合のメリット(経費、業務内容)などは。 答 管理運営費の減額などで、年間1000万円のコスト縮減につながっている。また、各種セミナーや重複する事業などを一体的効率的に行う事や、県内の雇用に対する情報収集が容易になるなどでも統合のメリットは大きいと考えている。 問 移転先の選定経過は。 答 同一の場所へ移転を進める事で県と合意し、複数の移転先を検討していたが、利用者の利便性を考え、中心商店街への立地場所選定となった。 問 実施効果は。 答 県と市の連携により、業務分担の見直しを行い、経費削減と費用対効果の高い事業実施を行なった。
------	---

考 察 【所感・課題 ・提言等】	創業支援については、各自治体などにおいても政策展開をしているところであるが、県と市が同様の事業について整理し、それぞれのメリットを生かしながら、事業を行っているというところは、非常に画期的な事であるとする。それぞれの利点を活かすため、多角的に議論を行った結果、事業展開にも大きな成果を残している。 創業支援は、概ね創業するまでのサポートが主であり、創業してから3年間までは比較的支持体制が充実しているとするが、創業して間もない経営者からすれば、その後も多くの経営課題に対応していかなければならない。その様な意味でも、まつやま創業者クラブの様な情報交換・共有・相談が出来る存在も非常に大きいものがあるとする。 本市における創業支援についても、各種事業に加え創業後のサポート体制も図るため、今回の松山市での取り組みを参考に施策提案したい。
------------------------------------	--

以 上

会 派 行 政 視 察 報 告 書

大崎市議会 調査活動概要報告書

報告者 早坂 憂

1. 視察概要

委員会名	創新会
委員名	佐藤仁一郎、佐藤弘樹、伊勢健一、早坂憂、石田政博
日時	令和5年7月25日
視察先	愛媛県松山市 フリースクールエルート
出席者 (説明者)	フリースクールエルート理事長 孕石修也、フリースクールエルート校長 西浦慎介、 フリースクールエルート教頭 末田健人

2. 視察内容

視察項目	フリースクールの運営体制と不登校支援について
視察内容	・事業内容
【質疑応答】	フリースクールエルートは、教育理念に「個々が自由に感じ、他者の自由のために行動し、巣立っていくこと」を掲げ、それを実現するために日々生徒達のために活動されている団体だった。特に最大の特徴とも言える「やりたいことリスト」を活用し、生徒が何を望んでいるかを把握して、それをできる限り実現するために生徒だけではなく、先生や地域の大人達が協力して実現させていることが印象的だった。生徒達がやりたいことが否定されず、可能な限り実現できるようにサポートすることで、目的を持つことの大切さや達成感、計画性や周りの生徒との連携など、様々な学びに繋がっていた。 現状についての話の中で、全国の不登校児童生徒の数は24万人を超えているほか、日本財団の調査では中学生の約10人に1人が「不登校傾向」にあること、更にNHKの調査では中学生の約5人に1人が「隠れ不登校」であるとの調査結果があり、推計33万人～74万人が部分/教室外登校・仮面登校をしているというデータも示された。 そんな児童生徒を支援するフリースクールだが、平成27年度の調査では全国に474箇所しか存在せず、その約半数がNPO法人であり、在籍生徒数は約4200人、約半数の施設が出席扱いにならないという厳しい現状も紹介された。不登校が問題なのではなく、何らかの理由で学校に行けなくなってしまった時、学校以外の居場所の選択肢がない事が問題だ、とのことだった。
	・その他の質疑応答
	問 不登校やフリースクールについての認知は進んでいると認識しているか。
	答 5年前と比べると大分認知されてきたと感じる。
	問 職員の方々は教員免許などは持っているのか。
	答 持っている職員もいるが、必須では無い。他にも心理士や栄養士、ヨガのインストラク

ターなどもいる。

問 最初からこのような体験活動がメインのカリキュラムだったのか。

答 最初は塾と同様の学習メインだったが、ある時期から体験活動がメインとなりはじめ、その中から生徒の元気になっていく姿をみて、とてもやりがいを感じるようになった。

問 3役の方々それぞれの出会いは。

答 同じ塾に所属していた仲間だった。そこから理事長と一緒にやろうと誘った。

問 生徒だけではなく、保護者が抱える課題に対する支援や対応が必要と感じるが、実際はどうか。

答 まさに仰る通りである。個別の相談会なども通常15分と設定していても2時間とか。その中でしっかりと生徒さんの状況も説明しますし、課題についても隠さずお話ししている。それに対して我々こういう風にして社会に出していきましょう、というスタンスで話すと皆さん満足して頂ける方が多いです。

問 ネグレクトや虐待といった背景があり、生徒が通いたいと思っても保護者が通わせてくれないケースなどもあるだろう。児童相談所と連携した案件などはあったのか。

答 もちろんある。これまでの中ですごく良い関係性を築くことが出来ているため、その前提の話でもあるが、児童相談所と連携することで強制的に親と切り離す事が出来る。あとは精神科に入院させるという場合もあります。我々の範疇を超えているな、と思えば、外部との連携は必須。

問 補助金などについて伺いたいのですが。

答 制度が始まった際は1施設上限200万円程度の制度があったものの、現在20を超える団体となっても予算額が変わらないため、活用できていないところは活用できていない。

問 出席扱いを認めてもらえるようにするには何が必要か。

答 5年くらい前までは確かに大変だったが、現在愛媛県では出席扱いにしてもらえると思います。県の意向として積極的に出席扱いにしていきたいと明言してもらっている。

考 察 【所感・課題 ・提言等】	設立の経緯をご説明頂いている時、「塾で生徒達を受け持ってきた中で、多くの不登校生と携わり、専門的に支援する施設が必要だと考えた」と話されていた事に非常に共感した。現在、不登校で悩んでいる児童生徒が本当に安心できる居場所を家庭以外に求める際、フリースクールやフリースペースの様な専門的な機関が身近に無いため、塾や家庭教師といった教育機関に頼らざるを得ない現状があるのだ。当大崎市でも、常設のフリースクールは皆無に等しい。選択肢すらない状況なのである。そんな中で立ち上がったフリースペースや期間限定的な居場所作りをしている団体も、人件費の観点から経営が非常に苦しい団体がほとんどである。愛媛県のように、不登校支援団体に直接金銭的な支援を行っている自治体は全国的に珍しいと考えるが、全国的な課題であることからすると国がしっかりと責任を負って対応すべきだろう。多様な学びを確保すると言葉では言っても、その実現への道のりはまだまだ厳しいものとする。行政単体、民間単体で頑張るのでは無く、それぞれの強みと利点を生かした連携が望ましい姿だと感じた。 これらの事を参考にし、新たな提言が出来るように引き続き努めてまいりたい。
------------------------------------	--

以 上

会 派 行 政 視 察 報 告 書

大崎市議会 創新会
報告者 石田 政博

1. 視察概要

会派名	創新会
氏名	佐藤仁一郎、佐藤弘樹、伊勢建一、早坂憂、石田政博
日 時	令和 5 年 7 月 26 日(水)
視 察 先	広島県尾道市 NPO 法人尾道空き家再生プロジェクト
出席者 (説明者)	NPO 法人代表理事 豊田雅子様

2. 視察内容

視察項目	空き家再生プロジェクトの事業内容と移住・定住支援について
視察内容	1: 設立趣旨 尾道は港町として有名だが、時代の流れにより駅前や港湾は開発され、古い歴史の面影は失われつつある。その一方、車の入らない斜面地や路地裏は時代に取り残され古い家並が残っている。不便さ故に空き家が増え続け、少子高齢化と中心市街地の空洞化の象徴となりつつある。そんな空き家の再生事業を通じて古い街並みの保全と次世代のコミュニティーの確立を目的に活動。 2: 活動概要 坂の町・尾道の風景は映画や CM のメディアで紹介されてきたが、一方では、車中心の社会への変化や核家族化、少子高齢化による中心市街地の空洞化の課題を抱えたエリアでもある。特に深刻なのは、車の入らない傾斜地や路地裏の住宅密集地に増え続ける空き家問題。まるで「建物の博物館」のような、山手の高台の「茶園」と呼ばれる、かつての別荘地だが、300 を超える空き家が存在し、長年の放置により廃屋化してきていて、建て替えや新築不可能なロケーションにおいて、現存する空き家をいかに上手く活用し、後世に伝えていくかが最重要課題である。 3: 活動経過 2007、5: 代表が再生第 1 号物件取得・任意団体発足 2008、6: NPO 法人格を取得・尾道建築塾開催、以降毎年開催 2009、3 月: 空き Press 発行、以後毎年発行 10 月: 尾道空き家バンクを事業受託 以後、各再生物件完成始動(10 件) 2012、12 月: 尾道ゲストハウス「あなごのねどこ」営業開始 2013、9 月: 第 27 回人間力大賞 総務大臣奨励賞受賞 2015、1 月: 平成 26 年度ふるさとづくり大賞受賞 2016、4 月: 尾道ゲストハウス「みはらし亭」(登録文化財) 営業開始 2021、11 月: 日本建築学会「第 11 回まちづくり賞」大賞受賞 *** 上記説明を受けながら、再生物件を踏査、同行視察実施。 《質問事項》 問 1: 15 年前に来た時よりの空き店舗が減って、新しい店舗が多いと感じるが、現状はどうか? 答 1: コロナ禍でも、毎月 1 件は新規開店している状況である。コロナの補助金や融資が受け易くなった事も一因かもしれない。(駅に続くアーケード商店街がメインである。) 問 2: 代表(豊田さん)はこの土地を離れた事があるのか? 答 2: 一度、大阪に出て U ターンしている。 *** 「あなごのねどこ」前、路上にて説明を受けるうちに、通行人から次々と挨拶(声をかけられる代表)されている事に、驚嘆。***

	問 3:「あなごのねどこ」ターゲット、値段は？ 答 3:若い学生さんや外国人、サイクリストも最近多い。一泊 2800 円～3000 円 問 4: 次の物件はどのヨブなものか？ 答 4: 事業再構築補助を利用して賃貸物件を再生（旧産科医院の再生物件視察） 固定資産税をプロジェクトで負担し、大家さんは工事費を負担しない、家賃は7年間据え置き。 *** 説明中に入居者の台湾からの留学生にヒヤリング。建築専攻で留学中、大変満足していると事*** 問 5:よそ者を受け入れる体制ができているようだが、風土か？ A5: 港町なので、昔から船が着くたびに知らない人がどさっと来て、お年寄りももともと他所から来た人が多いので問題ない。 問 6: スタッフは何名か？ A6: バイト、パート合わせて 26 人。本部は代表を含め4名、他はこの施設のように店長など(宿泊施設もあるので大変)学生さん等もいる。大学が多いところは羨ましい。 問 7: 行政からの委託は？ 答 7: 空き家バンクだけです。もともと市でやっていたが、鳴かず飛ばずで民間がやる事で土日祝日も対応しているので、この形がベストと思う。 問 8: 今登録している物件数は？ 答 8: 160 件程度ですが、空き家バンク担当は 3 人程度で、不動産屋さんが匙を投げたような物件が多い。旅が好き(大阪で海外旅行の添乗員をしていた。)だったので、大工の嫁になり、インテリアコーディネーターの資格を取得。 問 9: 移住者と定期的に交流は？ 答 9: アフターフォローで対応、空き地の再生を兼ねて公園を移住親子と整備して空き地再生プロジェクトとして活動している。移住の先輩と繋いで交流している。 問 10: このプロジェクトの発足の経緯は？ 答 10: 1 件／10 件が廃屋で、U ターンしたときに奮起し個人で買取、大工の主人とリフォームし、U ターンやI ターンの仲間がいて、ブログが流行り出した時代で発信に反響があり、年間 100 件程の移住の問い合わせがあり、団体の必要を感じ立ち上げた。当時仲間が 30 人くらい居た。今、17 年目に入った。 問 11: 会員数は？ 答 11: 正会員100名前後、賛助会員40名前後(遠方だが寄付してくださる)、ボランティア会員40名前後(主婦・学生)。 問 12: 現状の課題は？ 答 12: 課題はいっぱいある。地域の理解はかなり理解してもらっているが、地域に居ないオーナーが空き家バンクに登録しない場合、対応できない。その改革が必要。旅人から移住者のような流れが良い。
考 察 【所感・課題・提言等】	大崎市における現状把握をして、 現況の「くーらす」の不足部分を補えるような、専門性があり長期的展望を掲げ自主的な民間団体でご助力頂いている「尾道空き家プロジェクト」のような団体があれば、積極的に関与して制度設計すべきと提案します。 映画のまちのような、まちづくりのコンセプトが必要と感じた。

第1号以 上